プレスリリース

The Museum of Modern Art, Saitama

DECODE/出来事と記録ーポスト工業化社会の美術

DECODE / Events & Materials

The Work of Art in the Age of Post-Industrial Society

2019 年 9 月 14 日[土]—11 月 4 日[月・振休]
埼玉県立近代美術館

1960 年代末から 70 年代にかけての美術状況を、記録写真や資料との関係から検証します。近年国際的に評価が高まっている「もの派」と呼ばれる動向の見直しを契機として、関根伸夫の資料、多摩美術大学アートアーカイヴセンターと共同で進めている「もの派アーカイヴ」関連の展示、この時代から現在に至るまでの美術状況を広い視野において再考するための写真や映像によるアクチュアルな展示、以上の３つの柱を中心に構成します。

それぞれに異なる動機から発生した３つの柱から派生する展示が、時に重なりながら親和性を帯び、時にズレながら挑発しあうような、刺激的な時空間を出現させることによって、「ポスト工業化社会の美術」という見取り図を提起します。

■ みどころ

１　臨場感溢れる映像展示

この展覧会は、いわゆる「美術作品」を展示するところからスタートしていません。現在では存在していない作品の記録写真などの資料に注目し、そうした写真資料をベースにスライドショーを制作し、展示室で、大きく上映します。記録の中の作品をリアルタイムで体験していない方々も、その作品を実際にご覧になられた経験のある方も、展示室の空間に大きく投影される映像から、まるでその場に居合わせているかのような臨場感を味わうことができるでしょう。

また、資料を映像化したスライドショーだけではなく、美術家、写真家、映像作家たちが手掛ける映像作品も紹介します。作品内に組み込まれる映像も含め、14 の映像展示を予定しています。テーマや資料の読み解きはさておき、まずは、展示室で、大きく投影される映像にリラックスして身を委ねてみてください。

２　「もの派」へのアプローチの方法

この展覧会は、近年、国際的な評価が高まっている、「もの派」と呼ばれる動向のとらえなおしを、ひとつの契機としています。埼玉県立近代美術館は、これまで、「1970 年 物質と知覚－もの派と根源を問う作家たち」（1995 年）、「アーティスト・プロジェクト：関根伸夫《位相－大地》が生まれるまで」（2005 年）といった展示を開催し、「もの派」を含む時代の検証を継続してきました。

この展覧会では、こうした企画を含め、これまで試みられてきた「もの派」を検証する企画とは、異なるアプローチを採用しています。ひとつは、［１］と関わりますが、多くの作品が現存していないという状況を逆手に取り、記録写真などの資料を主軸にすえて、展覧会を組み立てるという方法です。（オリジナル作品、再制作作品の展示も含まれます。）

もうひとつは、後述する[4]と関わりますが、「もの派」の時代や「もの派」の代表作家に限定せず、「もの派」を相対的にとらえなおすために、幅広い時代、幅広い分野を紹介する方法の採用です。つまり、本展は、＜「もの派」の検証＞をひとつの動機として企てられていますが、＜「もの派」の作家・作品＞だけを紹介する展覧会ではないのです。

３　関根伸夫の資料の紹介

関根伸夫が 1968 年の「神戸須磨離宮公園現代彫刻展」において発表した《位相－大地》は、後に「もの派」と呼ばれる動向の出発点になった作品として、国内外で高く評価されています。「もの派」の相対化をひとつの動機として企てられた本展は、従って、《位相－大地》の検証から始まります。この作品は、大地に円筒形の穴を掘り、掘り出された土を、ほぼ円筒形に固めた作品です。展覧会会期後、穴は埋め戻され、作品は姿を消し、以降、記録写真によって語られてきました。

そうした状況をふまえて、前述の「アーティスト・プロジェクト：関根伸夫《位相－大地》が生まれるまで」（2005 年）の際に、作家と当館の共同作業として、記録写真をベースとしたスライドショー形式の《映像版 位相－大地》が制作されました。この《映像版 位相－大地》が、本展の起点となっています。そして、本展では、2017 年から調査を進めている「関根伸夫資料」の一部を参照し、《位相－大地》における「関根伸夫という文脈」の回復を果たし、「もの派」のとらえ直しへと切り込む手がかりとします。

なお、「関根伸夫資料」は、当館が多摩美術大学と共同で進めている「もの派アーカイヴ」にも位置づけられており、2015 年度から 2017 年度までの調査に対しては、文化庁の助成を得ています。「関根伸夫資料」の全貌を解読するための調査は、本展終了後も継続されます。

４　幅広い世代、多様なジャンル

「もの派」は、1968 年頃から 1970 年代前半にかけてが、最も注目すべき時期とされています。本展では、時代状況への鋭敏な反応という側面も有する「もの派」をとらえ直すために、幅広い世代と、多様なジャンルを視野に入れています。（本展では「出来事としての作品」と「その視覚的記録としての写真・映像」というとらえ方を採用しており、そこから「出来事の記録者」に注目しています）。

本展で紹介する「出品作家」と「出来事の記録者」の生年をみると、50 年近い幅があります。この世代の幅の設定には、「もの派」の前の時代と、後の時代を、両方視野に入れて、「もの派」の時代を炙り出そうという狙いがあります。

また、建築家で映像にも造詣が深い鈴木了二、映像作家で多彩な分野で活躍する萩原朔美、写真家であり近年は意欲的に映像にも取り組む金村修、写真家であり展示空間全体を印画紙で埋め尽くす作風で知られる小松浩子など、美術以外の分野の表現者にも参加を依頼しています。この方法には、「建築」と「写真／映像」で「美術」を挟み撃ちにすることで、「もの派」の原理を炙り出そうという狙いがあります。

５　「ポスト工業化社会の美術」という見取り図の提示

以上のような様々なアプローチによって、「もの派」の相対化を試みようとする本展が、キーワードとして提案するのが「ポスト工業化社会の美術」です。これまで、「もの派」に迫る研究や検証は、非常に短い期間の中での影響関係や同時代性などを緻密に調査することで、「もの派」の輪郭を浮かび上がらせようとする方法が主流でした。しかし、周辺に調査の領域を広げても「もの派」の重力圏を拡大するだけで、かえって「もの派」という枠組みが強化されてしまうことになりかねません。

これに対して、本展では、「もの派」の起点となった 1968 年から、現在に至る 50 年を、「同じ時代＝ポスト工業化社会の時代」と、大胆にとらえてみたいのです。そして、この「ポスト工業化社会の幕開け」に、最も鋭敏に反応し、その感性を、物質によって表明した美術動向として、「もの派」をとらえることができるのではないかと考えます。また、「ポスト工業化社会の黄昏」ともいうべき現代の社会状況への鋭敏な反応を、写真や映像によって表出させているのが、1960 年代生まれの写真家なのではないかと思われます。

本展では、「もの派」の起点となった 1968 年から現在までの約 50 年を、「ポスト工業化社会の時代」ととらえ、さらに、建築、写真、映像といった多様なジャンルを視野に入れています。このような枠組みをふまえて、「出来事」としての作品を、その「記録」から「解読＝DECODE」することによって、「ポスト工業化社会の美術」という見取り図を提案します。

■ 関連イベント

◇講演会「《位相－大地》という出来事」

９月 14 日（土）14 時 30 分～16 時 00（開場 14 時）

２階講堂／定員・１００名（当日先着順）／無料

講師：小清水漸（彫刻家）／聞き手：建畠晢（当館館長）、梅津元（当館学芸員）

展覧会の幕開けにあわせ、《位相一大地》の制作に関わった小清水漸氏にお話を伺います。

◇担当学芸員によるギャラリー・トーク

10 月 12 日（土）、10 月 19 日（土）　各日とも 15 時 00 分から 30 分程度

2 階企画展示室　費用：企画展観覧料が必要です。

◇シンポジウム「出来事と記録－写真の使命－」

10 月 27 日（日）14 時 30 分～16 時 30 分（開場 14 時）

２階講堂／定員・１００名（当日先着順）／無料

登壇者：中嶋興（映像作家）、小泉俊己（彫刻家・多摩美術大学教授）

聞き手：平野到（当館学芸員）、梅津元（当館学芸員）

内容：「出来事としての作品」と、その「視覚的記録としての写真／映像」に注目したシンポジウムを開催します。1960 年代末の重要な美術動向を記録した中嶋興氏と、安齊重男氏の写真を継続して調査している小泉俊己氏を迎え、「写真の使命」について議論します。

■ 開催情報

◇会場・会期　埼玉県立近代美術館　2019 年 9 月 14 日（土）－ 11 月 4 日（月・振休）
◇休館日　月曜日　（9 月 16 日、9 月 23 日、10 月 14 日、11 月 4 日は開館）
◇開館時間　午前 10 時～午後 5 時 30 分（入場は閉館の 30 分前まで）
◇主催　埼玉県立近代美術館、多摩美術大学
　協力　JR 東日本大宮支社、ＦＭ　ＮＡＣＫ５
　展示協力　サイバーグラフィックス株式会社
　映像展示協力　カシオ計算機株式会社
◇観覧料　一般１１００円(８８０円)、大高生８８０円(７１０円)
（　）内は団体 20 名以上の料金。中学生以下、65 歳以上、障害者手帳をお持ちの方（付き添いの方１名を含む）は無料です。併せて MOMAS コレクション（1 階展示室）もご覧いただけます（10 月 22 日～10 月 25 日は展示替のため MOMAS コレクションは休室）。

■交通案内

埼玉県立近代美術館　〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1　電話：048-824-0111
JR 京浜東北線北浦和駅西口より徒歩 3 分(北浦和公園内)。
JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約 35 分。
当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き)。団体バスは事前に御相談ください。お体の不自由な方の御来館には業務用駐車場を提供いたします(台数に限りがあます。

【参考情報】埼玉県立近代美術館
　ホームページ：http://www.pref.spec.ed.jp/momas/
　公式 Twitter：https://twitter.com/momas_kouhou
　公式 Facebook：https://www.facebook.com/momaspr
　公式 YouTube：https://www.youtube.com/user/momasjp

【問合せ】　埼玉県立近代美術館　学芸部　tel; 048-824-0110　fax: 048-824-0118
●展覧会基本情報および画像提供について：谷田（広報担当）
●展覧会の企画内容について：梅津･平野（展覧会担当）

【広報用画像の提供について】

本展フライヤー（当館ホームページに PDF 掲載）に使用している以下３点の写真を貸し出し可能です。

画像掲載に際には、必ず以下のとおりキャプションを記載ください。

チラシ 00：関根伸夫《映像版 位相―大地》（1968-2005 年／DVD／7 分）より

チラシ 08：完成間近の《位相―大地》と関根伸夫（1968 年）

チラシ 10：関根伸夫《位相―大地 1》1986 年／シルクスクリーン、紙／刷り：岡部徳三／版元：双ギャラリー／限定 25 部／埼玉県立近代美術館蔵

著作権について：
広報利用について著作権者の承諾を得ておりますので、クレジット記載は不要です。

掲載誌について：
後日、掲載誌 2 部（当館分・著作権者分）をお送りください。

埼玉県立近代美術館「DECODE/出来事と記録－ポスト工業化社会の美術」　※情報は都合により変更となる場合があります。

[出来事の記録者]

大辻清司／OTSUJI Kiyoji［1923-2001］
資料による紹介：「神戸須磨離宮公園現代彫刻展」図録等
村井　修／MURAI Osamu［1928-2016］
資料・映像による紹介：「神戸須磨離宮公園現代彫刻展」の記録写真が使用された関根伸夫《映像版 位相－大地》等
原　榮三郎／HARA Eizaburo［1935-2004］
資料による紹介：「第10回日本国際美術展 人間と物質」図録等
安齊重男／ANZAI[Iにウムラウト] Shigeo［1939- ］
本展出品作家の過去の作品・展示・設置状況等の記録写真を紹介
中嶋　興／NAKAJIMA Ko［1941- ］
本展出品作家の過去の作品・展示・設置状況等の記録写真を紹介
山崎　博／YAMAZAKI Hiroshi［1946-2017］
鈴木了二《断層建築》の記録映像（16mmフィルムをデジタル化）を紹介

[出品作家]

飯田昭二／IIDA Shoji［1927- ］
高松次郎／TAKAMATSU Jiro［1936-1998］
李　禹煥／LEE Ufan［1936- ］
柏原えつとむ／KASHIHARA Etsutomu［1941- ］
関根伸夫／SEKINE Nobuo［1942-2019］
榎倉康二／ENOKURA Koji［1942-1995］
吉田克朗／YOSHIDA Katsuro［1943-1999］
菅木志雄／SUGA Kishio［1944- ］
鈴木了二／SUZUKI Ryoji［1944- ］
成田克彦／NARITA Katsuhiko［1944-1992］
小清水漸／KOSHIMIZU Susumu［1944- ］
野村　仁／NOMURA Hitoshi［1945- ］
萩原朔美／HAGIWARA Sakumi［1946- ］
金村　修／KANEMURA Osamu［1964- ］
小松浩子／KOMATSU Hiroko［1969- ］
鈴木了二・田窪恭治・安齊重男
SUZUKI Ryoji・TAKUBO Kyoji［1949- ］・ANZAI[Iにウムラウト] Shigeo
《絶対現場》の図録掲載写真をスライドショー形式の映像によって紹介